

第23回 東海・東南海・南海地震津波研究会 開催報告

- (1)日 時 : 2003年11月29日(土)
- 1)第1部(津波防災意見交換会) 15:00~17:00
2)第2部(浜島町防災講演会) 18:30~20:00
- (2)場 所 : 三重県志摩郡浜島町
- 1)第1部(津波防災意見交換会) 浜島生涯学習センター
2)第2部(浜島町防災講演会) 浜島町 B&G 海洋センター
- (3)目 的 :

三重県では、津波による甚大な被害が予想されることから、三重県南部の志摩半島から熊野灘沿岸地域を中心に、18市町村が平成14年4月24日に東海地震の地震防災対策強化地域に指定された。また、東南海・南海地震においても、地震防災対策推進地域に指定されようとしている。

太平洋沿岸の熊野灘と英虞湾に面した浜島町は、外海と内海からの甚大な津波被害を受ける可能性のある地域である。

三重県はこうした地域の事情にあった地域毎の津波避難計画を策定することとしており、策定にあたっては、市町村の防災担当者はもとより、地域住民の津波に対する知識や理解を深めることが重要であると考えている。また、官・学・民が一体となり津波防災の研究をしている当研究会会員との意見交換を通じて、研究会の蓄積してきた知識を享受し、地域の事情にあった津波避難計画策定に資することを目的とする。

- (4)参加者 : 22名(研究会会員)
- 1)第1部(津波防災意見交換会):他,浜島町長、町役員、地区会長等、消防団・消防団長、近隣市町村防災担当者 等多数
- 2)第2部(浜島町防災講演会):浜島町住民 多数

(5)概 要

1)第1部(津波防災意見交換会)

浜島町井上町長から開会の挨拶を頂戴した後、浜島町の方々から津波に関する素朴な質問をお受けし、研究会会員が回答、コメントするような形式で会が進められた。地元の方々から以下のような質問があった。

- ・ 河口水門は常時開けておきたい。閉めると水門前面で津波が堰上がり河下にある集落に被害が及ぶ恐れがある。しかし、水門を開けておくと津波が河川を遡上し環境への影響が懸念される。そうしたらいいか？
- ・ 外海で津波が5m程度来襲したとした場合、内海や湾の奥ではどの程度の津波高になるのか？



- ・ 地震や津波は予知できるのか？
- ・ 海上で漁をしている場合、どうしたらいいのか？
- ・ 遠地津波の観測はどうやっているのか？
- ・ 浜島町には何分で津波がやってくるのか？
- ・ 地震が起こったらどこに逃げたらいいのか？避難計画を立てるにしてもどのように検討したらいいのか？
- ・ 東海・東南海・南海地震津波研究会って何をやっているの？

以上のような質問に対して、河田会長を始めとして研究会会員から解説、アドバイス、持論を地元の方々にお返しし、またその意見に対して議論を展開した。

河田会長からは、「長丁場で考えなければならぬ。次の東海・東南海・南海地震に間に合わないかもしれない。しかしその次の東海・東南海・南海地震に間に合えばよい。私たちの子供や孫が安心して暮らせる対策を今からはじめなければならない。まず、自分の家でできることをやる。誰も助けにこない。こられない。自分の命は自分で守る。ただし、自分のことだけ考えてはいけない。家族、近所、地域一丸となって対処しなければならない。そこで自分が何ができるのか考えてほしい。」と言ったアドバイスがあった。



2) 第2部(浜島町防災講演会)

演題：東海・東南海・南海地震における津波災害について

講師：河田恵昭 会長

(京都大学防災研究所巨大災害研究センター センター長・教授)

会場では三重県における東南海地震津波の被災写真が展示され、参加者には浜島町から保存水と乾パンが配布された。



河田会長より、地震や津波のメカニズムや特徴、これまでの世界や日本各地での津波被害、様々な見知からの被害シナリオについてのご講演があり、浜島町も人ごとではないことを強調された。全て自分たちに降りかかる災難として受け止め、各自でできることを考え、今日からでも行動に移していくことの重要性を説かれた。

雨天にもかかわらず大勢の住民が参加してくださり、90分を越える講演にもかかわらず熱心に聞き入っていた。

